

「閃き」を創出する発想・創作支援ツール:MochiFlash —クリエイターの共創・コラボレーションのためのイメージ共有ツール—

1. 背景

従来の共同創作では、以下のような問題点があった。

- ・作業中のコミュニケーションギャップ。
- ・作品ができ上がるまで、イメージが共有できているか解らない。
- ・作業者間の知識差。
- ・絵本等の場合、絵のスキルを持たない人は、創作に介入することが難しい。

そこで、誰でも気軽に、楽しんで創作を行うことができるシステム:MochiFlash の開発を行った。

2. 目的

MochiFlash の開発コンセプトは、以下の通りである。

- ・誰でも気軽に扱える。
- ・使用の際、特別な難しいルールを用いずに、イメージを簡単に表現できる。
- ・作業中の情報収集に手間をかけずに済み、作品制作に集中できる。

本システムの使用により、期待される創作の効果は以下の通りである。

- ・イメージレベルでのコミュニケーションギャップが明確になり、齟齬を見過ごさず、徹底的に話し合うことができる。
- ・作品に対するイメージ自体を共有できるため、絵を書くなどの作業に着手する前に、イメージの擦り合わせができる。
- ・マップを開示しながらイメージの擦り合わせを行うため、知識だけに頼らないコミュニケーションを行うことができる。
- ・絵のスキルを持たない人でも、気軽に創作に参加でき、作品に自分の意見を反映させることができる。
- ・創作それ自体についても、意外な情報の提示によって、発想を促進することができる。

3. 開発の内容

[動作環境]

ウェブアプリケーションである MochiFlash は、以下の環境で動作する。

- ・クライアントマシン: Flash Player 及びウェブブラウザ(Mozilla Firefox 推奨)
- ・サーバマシン: PHP5、PEAR(HTTP/XML/NET/Auth)、Mecab が使用可能であること

[システム構成]

マッピングツール

- ・個人が持つイメージを表現するマップ機能
- ・二人でイメージをシェアするマップ合成機能
- ・アイデアを展開するための、画像およびキーワードレコメンド機能
- ・事前に書き貯めたアイデアを作品制作に活かすためのウェブログからのキーワード抽出

絵本制作ツール

- ・文章および画像をアップロードできる、作品制作機能
- ・作品を公開するギャラリー機能

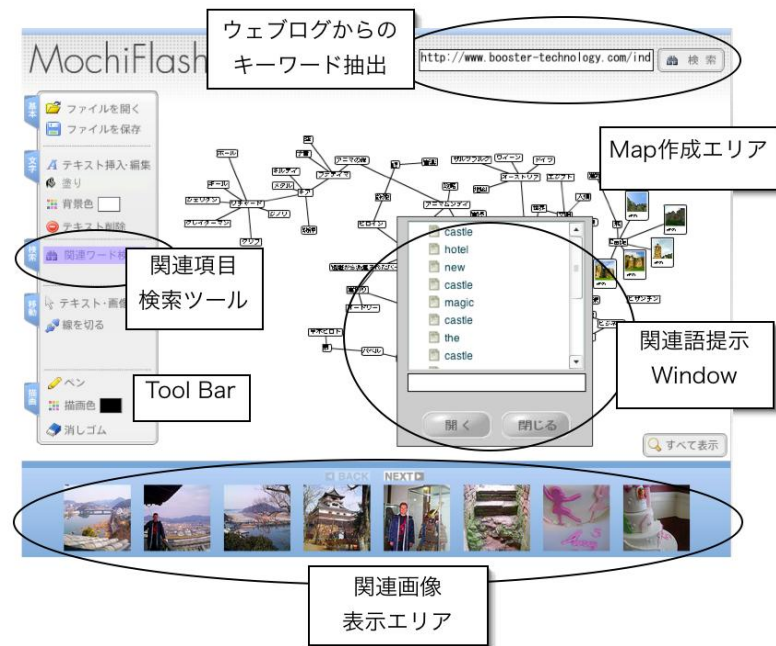


図 1. MochiFlash 画面図

4. 従来の技術(または機能)との相違

MochiFlash は、創作におけるアイデア創発を支援する。また、言語化が難しいアイデアを表現する手段として有効であり、二者間で MochiFlash で作成したマップを共有する事で、コミュニケーションギャップを埋めることができる。

従来のアイデア整理法や発想法として、マインドマップや KJ 法が挙げられる。しかしこれらは作業手順に細かいルールがあり、これら手法の性能を最大限に引き出すためには、習熟が必要不可欠である。また、記述のルールが厳密に決まっているため、手書きのノートやメモのような自由さが失われてしまう。

MochiFlash は、手書きの感覚でアイデアを整理することができ、使用に際して特殊なスキルを身につける必要がないため、誰でも気軽に使用することができる。評価実験においても、ユーザは 10 分程度でシステムの使い方をマスターし、実験時はスムーズにマップ作成を行うことができた。

5. 期待される効果

創作・デザインに関連する分野(出版・WEB コンテンツ業界)を中心として、ユーザの発想を喚起し、共同作業の成果物に良影響をもたらすことが期待される。

6. 普及(または活用)の見通し

WEB アプリケーションとしてオープンした後の利用者数は 1000 人ほどを予想している。その内訳は、主にアーリーアダプターとなる先進的なデザイナー、クリエイターが 8 割であると考えられる。

7. 開発者名(所属)

開発代表者:小宮 香織(中央大学大学院 理工学研究科)

共同開発者:関口 佳恵(中央大学大学院 理工学研究科)

開発パートナー:株式会社ブースターテクノロジー

(参考)開発者URL:<http://mochiflash.com/>